令和3年度第1回伊賀市地域福祉計画推進委員会 会議録

日時 2021(令和3)年4月28日(水) 19:30～

場所 伊賀市役所2階 202・203会議室

<出席者>

板井委員長,中嶋委員,藤岡委員,松田委員,米田委員,小竹委員,宮谷委員,麻田委員,
高橋委員,谷本委員,加藤委員,深田委員

<事務局> 田中部長,中川次長,松田主幹兼福祉総務係長,上村主任

<社 協> 平井常務理事,田邊事務局長,福永地域福祉部長

<事務局>

それでは事項に入らせていただく前に、何点か確認をさせていただきます。まず、資料でございますけれども、事前に配付をさせていただいておりますけれども、皆様お待ちいただきましたでしょうか。よろしゅうございますか、はい。もし足りないものがありましたら、お声掛けいただけたら準備をしておりますので、よろしく願いいたします。また次に本日の推進委員会ですけれども欠席のご報告をいただいております藤田委員様、服部委員様、清水委員様から欠席の連絡をいただいております。ちょっとまだお見えになってない委員様もおみえになりますけれども、本日は、17人中12名の方のご出席をいただいております。

続きまして、これまで議事進行につきまして、3点ほどお願いをさせていただいておりますけれども、これまでと変わりございませんので、時間短縮のため割愛をさせていただきます。それではここからは板井委員長様に議事進行をお願いしたいと思いますので委員長様よろしく願いいたします。

<委員長>

はい皆さん改めましてこんばんは。それは時間短縮なので早速議事に入らせて頂く事をお許してください。座って失礼いたします。それでは会議に入りたいと思います。まずいつものことですが、私の方から本日の議事録署名人を指名申し上げたいと思います。宮谷委員と米田委員をお願いをしたいというふうに思います。はい、ありがとうございます。それでは宮谷委員・米田委員よろしく願いいたします。

はい。それでは本年度第1回目の推進委員会を始めさせていただきたいと思います。議題はしっかりしっかりあるのですが、会議時間短縮のため概ね1時間程度を目標に頑張りたいというふうに思っておりますが、どうぞ貴重なご意見はしっかり出していただきたいというふうに思っております。まず報告事項から参ります、一つ目です。第2次伊賀市立上野総合市民病院改革プランの進捗につきまして、早速ご報告をお願いしたいというふうに思います。

<事務局（副院長）>

資料を説明に入ります前に、この第2次改革プランとはいかなるものだったかを簡単に確認させていきたいと思えます。こちらは平成27年度に国が、このプランを策定するよう要請を行ったものでございます。と言いますのも全国多数の自治体病院ございますけども、経営状況は非常に悪くて、医療提供体制が厳しい状況になると言った中で経営効率化の視点に立った改革を行って、良質な医療を提供して行くっていう考え方でございます。実際その頃の当院はですね、医師の減少に始まりまして、患者さんの減少、病棟の閉鎖、経営悪化という悪循環、負の連鎖に陥っておりました。

これでは当然市民の方々に必要な医療を、安定的に提供していくことはできません。経営を立て直すには、市民のニーズに合った良質な医療を提供しまして、患者さんから選ばれる病院となって、それに見合った診療収入を得まして、その収入を医師の確保でございまして、医療機器の更新に充当して、医療の質をさらに高めるといった好循環を生み出す必要がある、ということでこのプランを策定いたしました。このプランは病院運営を悪循環から好循環へ転換するための計画と言えるものでございました。平成29年度から令和2年度までの4年間の計画終了いたしました。令和2年度を中心に結果概要を報告させていただきます。

まず1ページでございます。全体的に文字が小さくて大変申し訳ございません。まず1ページ目は患者数の表でございます。一番右側が、すいません令和2年度12月末現在の数字ですので、ちょっと古くて申し訳ございません。まず各自外来につきましては、結局年間で6万2514人となりました。入院につきましては6万191人となりました。どちらも元年度に比べて約13%も減少しております。一番の原因は新型コロナに因ります患者さんの受診控えでございます。こちらは全国の医療機関共通でございます。さらに当院昨年度もう一つ外来患者さんが減る要因がございました。選定療養費という言葉をご承知いただいておりますでしょうか。紹介状を持たずに受診したらかかってしまう費用でございまして、これはもう国が法律で決めてきたものでございまして、最低でも5500円、やむなく私どもも、ギリギリ法律ギリギリの期限である昨年10月から初心者で紹介状を持たない患者さんから5500円を徴収するようになりました。これも一定、減少要因になっているかと思えますが最大の要因は何といってもコロナだと思っております。私どもとしてはですね、今後も開業医さんとの連携を深めまして、病院でしかできない検査・手術・入院。こういったものをしっかり担うようにしていきたいと考えてございます。

続きまして2ページでございます。病床稼働率でございます。入院患者数が減少しましたので、稼働率も下がりました。最終的には60.2と書いてございますが、最終60.9%となりました。辛うじて60%を維持しましたが、目標からは少し、少しというかかなり、こういう数字になりました。次にその下の4、一般会計からの繰入金でございます。当院から見れば繰入金でござい

すけれども、この一番下が基準外繰入金でございまして、目標としては2年度にゼロとすることでございましたが、こちらにつきましては達成することができました。これはグラフ化しており、見やすいのが3ページでございますので、すみません3ページをご覧いただきたいと思います。棒が黒いところと白いところがございまして、黒塗りが基準外、総務省が定めた基準に基づかない繰り入れ分、平成26年度では最大で約8億4700万円入れていただき、このような状況であれば、当然先行き行き詰まることが確実な状況でございましたので、経営改革にこのプランで取り組んでまいりました。徐々にこちら基準外が減少いたしまして2年度に0にまで持ってこれた状況でございます。

次に会計決算の状況をご覧いただきたいと思います。4ページをお願い致します。こちら文字が大変小さくて済みません。上の棒グラフだけご覧いただければと思います。当院平成18年度から、純損益それから実質単年度収支ともずっと赤字でございました。ちなみに公立病院が黒字か赤字かと言いましたら、この基準外繰入金も含めた上での決算で黒字か赤字かでございますので、たとえどんなに多額の赤字であっても、それ以上一般会計から入れてもらえば黒字になってしまいます。これはいわゆる隠れ赤字ですね。それではいけませんということで、当院につきましてはですね、幸い実質的な黒字という形になりました。そうですね黒字転換しましたのが平成30年度、これ実は13年ぶりの黒字ということでございまして、最終的に令和2年度に、基準外繰入金もゼロの上で今年こういう形になりました。これでいいまでも、民間企業のように利子を得ているわけではございません。基準内の繰入金をいただいておりますので、貧しい、まだ経営悪いときですね、累積の債務までも残っておりますので診療収入で利益を得て、そういう状況ではございません。あくまで会計状況で黒字か赤字かといえば黒字ということでございますので、ご承知いただきたいと思います。計画に沿って経営面での改善には成功したのではないかと考えております。病院としましてはざっくり言えば、常勤医を増やしまして診療の質を高め、そういう努力をしまして減っていた患者さんが徐々に戻ってきていただきまして診療収入が増えた、一方で費用の方はなるべく抑えたということだと思っております。経営面では一定の成果があったと思っておりますが、私ども、今の状態で市民病院がいいのかと言えば決してそういうつもりはございません。手を抜いては当然いけないと思っております。もっと医師も看護師も確保いたしまして、設備的な面ももっと向上させてですね、医療の質を上げないと、病院としての質、レベルはまだまだだと思っております。

5ページは飛ばして6ページをご覧いただきたいと思います。6ページの7)患者満足度(患者の声)とございます。こちら、ちょっと伸び悩んでございます。声を書きいただく方は、どうしても満足した方より不満を持った方のほうが多いので、こういったものは低めに出るものではありませんが、もう少し上げないといけないと思っております。特に不満の声が多いなと思うのは外来、それから会計の待ち時間ですね。これが長いといったことで、かなり年

間を通じて声を頂いております。ただ当院は本当に外来がガラガラだったときに比べれば、患者さんも増えて時間も長くなってはいると思いますが、決して他病院と比べてそんなに長いというわけでもないと思っております。例えばですね『会計が岡波さんは15分程度だと、この病院はずっと長い。1回見てきて勉強しなさい』っていうのをいただきましたので、調べてみましたら結局うちは平均的に15分以下、15分を切っておりました。そういったことではございますけれども、まだまだ改善が必要かなと思っております。この満足度を上げるためには質の高い医療も勿論でございますが、全てのスタッフの態度であるとか。設備や備品であるとか、入院患者さんの給食・清掃などで、様々な要素があって影響してまいります。全てのスタッフが機転の利いた対応できればいいのですが、なかなか入れ替わりもありますし、うまくいかないところがございます。時々開業医さんとか市民の方から、「市民病院は良くなったね」と言っていたことがございます。ただ私どもとすれば、やっと普通の病院に近づいてきた状態という認識でございます。今までは以前が悪すぎただけと思っております。幸い今の院長その辺、大変理解していただいておりますし、医師の確保にも自ら積極的に動いていただいておりますし、各部門の底上げのためにですね。しょっちゅう会話もして、スタッフとの会話もしてくれております。時間をもう少しだけ喋らせていただきますと、これ資料の他の数字はまたご覧いただきたいと思っておりますけれども、第2次改革プランが終了いたしまして、じゃあこの後どうなるのかということでございます。それにつきましては国の方から第3次を作るように考えておるのですが、ちょっとコロナが出てまいりましたので、これが落ち着いたらまた作成のためのガイドラインが出てくるという予定でございますので、それが出来れば新たな計画を策定したいと、こういう形で考えてございます。

最後にコロナの関係を少し触れたいと思います。県内でも少なからぬ病院でクラスターが発生しました。伊賀地域でもございます。幸いこれまでのところ当院におきましては、クラスターあるいは院内感染は発生してございません。これは一つには運が良かったと思っております。ただそんなに私ども初期から取り組んできたつもりではありません。職員に、もう繰り返し感染対策をうるさく言ってきました。プライベートでも会食それから県外の移動の自粛を去年の早い段階から言ってきております。毎朝検温はもちろんです。チェック表に基づいてチェックをして、少しでも異常があれば上司に報告をする。こういった成果もあったものと考えております。市中感染が広がりますと、患者さんであれ職員誰かが持ち込む可能性はどうしてもありますので、防ぎきれないと思います。問題はそのときに院内で広げない、これが一番大事でございますので、私どもの基本的な持ち込まない、広げない、これを今周知徹底しております。今後も感染対策をしっかりやりながら、一般診療の質の向上にも引き続き取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。私のほうからは以上でございます。

<委員長>

はい。ありがとうございました。丁寧に御説明をいただきました。上野 総

合市民病院の改革プランの進捗報告につきましては毎年度、この地域福祉計画の推進会議でご報告をいただいております。お示しをいただきましたデータ等はホームページ等でも公開されているものかとする認識しております。あくまでも地域福祉計画推進の観点から、委員の皆様にはご承知おきをいただきたいということでご報告をいただいております。ということをございます。そういうことを踏まえましてご確認をいただきたいことなどございましたらお受けしたいと思っておりますが、いかがでございましょう。ありがとうございます。それでは引き続き、また、進捗とご報告をいただければというふうに思います。ありがとうございました。

それでは、報告の二つ目に入りたいと思います。第4次伊賀市地域福祉計画パブリックコメントの結果につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

<事務局>

第4次地域福祉計画のパブリックコメントの結果について資料2に基づいて、ご説明をさせていただきます。座って失礼させていただきます。資料2の方ともう1枚、一緒に付けさせてもらっているのは資料2の1という形になっているのですが、こちらにつきましてはホームページ上でも公開はさせていただいている資料になります。まず資料の2の方が意見集約結果でございますが、前回の推進委員会の際にもご説明させていただきましたように、今年の3月15日から4月16日までパブリックコメントを実施させていただきました。寄せられた意見につきましては、お二人から意見がございました。意見要旨分類としましては、第3章の「本計画の仕組み」に関する部分で1件。その他のどの章という訳でもなく、全体的なことに関して1件っていうことの計2件になっています。具体的な意見の内容につきましては、次の資料の2の1になるのですが、まず1つ目が全体としましてってということで、いただいたご意見としましては、「一般社団法人伊賀歯科医師会として協力をいたします。よろしく願いいたします。」っていうご意見をいただきました。それにつきましては記載のとおり回答をさせていただいております。そしてもう一つの意見としましては、先ほども申し上げましたが、23ページにもあります、第3章「本計画のしくみ」の基本理念のところなのですが、資料3でお渡しさせてもらっている冊子の23ページをご覧ください。23ページの本文中の下から4行目の部分ですが、当初は「地域共生社会は支える・支えられるという役割を超えて」というような記載で中間案はなりましたが、こちらについては役割ではなく「関係」の方がいいのではないかというご意見を頂戴いたしました。それを受けまして後でも説明させていただきますが、ご意見のとおり修正いたしますと回答をさせていただいております。以上パブリックコメントの結果についてのご報告になります。

<委員長>

はい。ありがとうございます。パブリックコメントを2件いただきました。いずれも、個人の御意見をいただけて反映すべきところを承っていただけたかな

ということですので、このパブリックコメントの結果につきましてご質問やご意見ある方はおっしゃっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。これ A の伊賀歯科医師会様からご協力についてなんですけれども、どうでしょう、委員会として計画に反映はするとしたら、例の専門部会の部分かなと思うんですけれども、この専門部会については今回の計画で具体的に構成メンバー等が記載されているところはなかったですか？

<事務局>

失礼いたします。専門部会といいますが、第 3 章の戦略のところ、37 ページの所に「専門機関の力を高める」ということで、引き続き第 3 次計画でも取り組んできていました、仰っていただいた専門部会である保健・医療・福祉分野の連携検討会につきましては、引き続き取り組んでいきたいと思っております。以上です。

<委員長>

はい、37 ページの戦略の 2 に関わってくる、という申し入れかというふうに思います。ここまでの取り組み、具体的に進めていただいている一つが、38 ページの庁内連携の中で皆さんにご参画いただいています地域福祉計画推進委員会から右側に一つ下がったところに専門部会というのがございます。地域課題の解決に向けた方策を協議するというので、これ実情としては保健・医療・福祉分野の専門部会を、この会議体では立ち上げておまして、関係者にご協力いただいております。こちらに今回の申し出をうまく反映ができるようにぜひご検討を次期計画推進の中で進めていただきたいということを、今回の委員会の議事録に残していただければと思います。加えまして一つ確認ですが、この部会の機能としまして、128 ページをご覧くださいと思います。今申し上げました、専門部会を持つということの根拠は伊賀市地域福祉計画推進委員会条例の中の第 7 条で認められている機能ですので、こちらを活用していくということでございます。もう既にご承知のところだと思いますが、改めて確認をさせていただき、お申し入れに対して積極的にお応えできるような形で進められればというふうに思います。それでは改めまして協議事項の方に進ませていただきます。パブリックコメントの結果を踏まえまして、第 4 次伊賀地域福祉計画の最終案がまとまりました。まず最終案につきまして事務局よりご説明をお願いいたします。

<事務局>

失礼いたします。資料 3 といたしまして、第 4 次伊賀市地域福祉計画の最終案ということで提示させていただいております。座って説明させていただきます。委員の皆様におかれましては、前回 1 月 6 日に、中間案に関してこの当委員会でご審議いただきました。その中でいただきましたご意見をもとに、中間案のほうを修正させていただきまして、また委員長の方にもご確認をさせていただきまして、パブリックコメントに出す段階での中間案という事で修正したものとしましては、パブリックコメントを行う前に送付をさせていただいたところですので。その中間案を基に先ほど説明させていただいた

ようなパブリックコメントの結果を受けまして、具体的に修正させていただいた所としましては、先ほど申し上げました、23ページの「本計画のしくみ」の基本理念の部分の文言を変更させていただきました。そしてそれと加えましてこの最終案におきましては113ページ以降になりますが、資料編ということで、中間案のときは添付しておりませんでした。この最終案においては、前回の計画同様に資料編を添付させていただいております。最初一つ目としてはこの委員会の中でもご審議いただきました、一昨年度の最後でご説明をさせていただきました計画の策定方針を、記載させていただいており、二つ目として117ページから策定経過ということで、昨年4月13日に当委員会の方に市長から第4次計画策定についての諮問があったところから策定経過が始まっており、その諮問に基づいて開催させていただいた委員会であるとか、前回の委員会でも説明をさせていただきました市民の皆様からご意見を頂戴するために、タウンミーティングに代わる新たな手段として行った動画や、意見聴取会の開催のことであるとか、先ほども申し上げましたパブリックコメントを募集したことがあるとか、そういうこの計画の策定の経過について記載をさせていただいております。

そして次の119ページから今申し上げました、説明動画を作成してタウンミーティングに代わり意見を聴取したことを記載させていただいております。最初になぜ動画を作成して意見聴取会を開催することになったのかという経緯を説明させていただいており、次の120ページは、どういう経緯で動画のテーマ設定をしたのかという説明を記載させていただいており、121ページから123ページまでは頂いたご意見について記載をさせていただいております。こちらにつきましては、この計画の中で「4つの支え」と「4つの安心」「6つの充実」という重点施策を掲げるということで前回の中間案のときに説明をさせていただいておりますが、その中で6つの充実のところにつきまして、反映をさせていただいているという部分になります。それぞれ6つの充実である「みんなでつくる地域福祉コミュニティ」、「多機関の連携による福祉の「わ」づくり」、「つながりあえる地域づくり」、「安心と安全のまちづくり」、「これからの人材を育成するしくみづくり」、「生きづらさを抱えた人に寄り添う社会づくり」という、それぞれの項目にいただいたご意見を反映し、中間案の時に既にお示しさせていただいております。

そして125ページは、当委員会の名簿で、委員を代わられている方もおられますが、計画策定の諮問段階での名簿ということにさせていただいております。最後127ページからは、関係条例要綱ということで、それぞれ条例と要綱を記載させていただいているという形で130ページまでは資料編として付けさせていただいて、中間案プラス資料編で、最終案として今回ご提案させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

<委員長>

はい。ありがとうございました。前回中間案にいただいたご意見から修正を加えたもので、パブリックコメントをとらせていただきまして、その意見

に対しての報告を先ほどございました。加えて資料編を加えた形で最終案として、本日委員の皆様にはご覧いただいているところかと思えます。今回こちらで最終案答申という形でのご了承をお諮りするにあたりまして、委員の皆様方からお気付きの点等ございましたらいただきたいというふうに思います。いかがでございましょうか。はい、御願います。

<委員>

41 ページ 42 ページですが、単にミスっているかと思っていますが、「4つの支え」と「4つの安心」は記載してありますが、「6つの充実」が記載されていません。敢えて記載されてないのか、あるいは単にミスっているのかと、イメージ図もうちよっと、地域を支えていくという面では、これまで全ての文言にも載っている地域福祉ネットワーク会議、それからそれを情報交換する連絡会の設置が一番大事です。なおかつ、市として重層的支援体制整備事業をこれからやっていく大きな役割を担っていると思えます。伊賀市流地域共生社会を作るためには、大きな柱立てがあったと思えますが、その辺がちゃんとここに出てこないのがちょっと淋しいかなと思えます。一般的なことは当然載っていますが、伊賀市流というものがなかなか見えてこないのかなという感じで思えます。それから、31 ページですが、これは単に間違いだと思えますが、住民がつながる場所を地域資源という形で提言されていますが、下のイメージ図では社会資源になっていますので、これは社会資源の間違いでしょうか。資源というのは、あくまでも地域資源という地域にある地域固有の資源を、これから掘り起こして行くことが大事だということで書かれていると思えますがどうでしょうか。

<委員長>

はい。ありがとうございます。2点、ご確認をいただきました。先に41 ページ 42 ページのイメージ図についてですが、これは前回の中間案から変わりましたか。

<事務局>

変わってないです。

<委員長>

変わってないですね。そこに「6つの充実」が入っていないのではというご指摘です。確かにおっしゃられるとおりかなと思えますが、いかがでしょうか。もし意図があればということですが。

<事務局>

「6つの充実」という言葉では書いていませんが、その中で充実させていくべき事柄につきましては、それぞれ記載はさせていただいております。「6つの充実」は真ん中の所を書いてあるように、地域の中で行っていく部分を明示しており、ここに「6つの充実」を書いてしまうと「6つの充実」は外側のネットワークの部分では全くなくなってくるのかという部分がありましたので、充実させていくべき事柄として中に記載をさせていただいておりますが、

「6つの充実」の1つ目は地域づくり、地域福祉ネットワーク会議をベースにプラットフォーム的なものを構築していくと書かせてもらっており、2つ目は多機関が協働して連携して福祉の「わ」を作っていく部分というのが、ここだけで捉われると何か変な誤解を与えてもということがあり、あえて「6つの充実」という言葉は入れておらず、その中でも充実させていくのは、こういう事だよということだけは入れたつもりだったという感じのイメージ図で考えておりました。これがまず1点目のことになります。

続いて2点目31ページですが、申し訳ございません。最後まで文言を確認していたつもりでしたが、おっしゃるとおり本文中で地域資源と書いてありますので、このところについてはもう一度検討させていただき、修正させてもらうのがいいと思いますので、少し検討させてもらいたいと思います。

<委員長>

はい。ありがとうございます。先に41ページ42ページですが、イメージ図っていつも難しいのですが、確かにこの「地域を支える」ところの右と左に「4つの支え」「4つの安心」があって、これは計画で今回打ち出している文言ですので、その「わ」が地域の多くを囲みながらというようなイメージだということですが、事務局の方から言っていた「6つの充実」をそれぞれ6つ挙げてはいないというのは、その中の上の四角で囲ったところにつながりあえる関係・安心した暮らしというのがこの「6つの充実」にあたるという解釈ですか。

<事務局>

はい。

<委員長>

ただそこは6つにした方がいいかもしれないです。イメージとして分かりやすいかなという気もします。一方で地域福祉ではありますが、全ての施策の中で関係機関との連携とかも含めて考えると全ての地域の中に入れるのもどうかというところがあったと思いますがどうでしょう。四角で囲っているこの4つの囲みを6つに変えてしまうことは代替案かなと思いますがいかがでしょうか。

<委員>

当然「6つの充実」は重点施策として位置付けられていますので、イメージ図の中に記載したほうが良いのかなと思います。「4つの支え」と「4つの安心」と「6つの充実」をやっていくという意味で、掲載すべきだと思います。

<委員長>

ありがとうございます。「6つの充実」とその4つの囲みはどう違うのかということになると、また説明をしていただかなくてはいけなくなりますので、作成過程の意図は違えてはいないですが、行政計画ですので、文言を丁寧に尊重しますと、「6つの充実」を41ページ42ページの囲みの中の四角の中で揃えさせていただき、これで「4つの支え」「4つの安心」「6つの充実」

は記載されたということになるかと思えます。一方でそうやってきますと、その上の「住民が主体となっていくいきと暮らしでいけるコミュニティ」という表現は理念をそのまま持って来ていましたか。違いますか。そうしましたら、ここも違う表現が加わっていますので、イメージとしては分かりますが、用いられる文言を計画で統一をされてはいかがでしょうか。

その上もし記載するのであれば基本理念が望ましいと思えますがいかがでしょうか。さらに、そうすると一番上のこの「地域を支えるネットワーク」という表現がすごくトップに出てきますので、第4次計画の中でどういう表現があるのかということになると思えます。たとえばここを先ほど委員もおっしゃられましたし、私もこの第4次計画が第3層の地域福祉ネットワーク会議の充実をめざすことが非常に大きな目標の一つだと思えますので、表現するのであれば、地域福祉ネットワーク会議とするかどうか。でも具体的な名称が入ってしまうことでイメージを固めてしまうのもいけないので、これは毎回悩ましいところですが、外注してプロに作ってもらっても必ず全員が合意できないという所もありますし、かといって雑に作ってしまうものでもありませんし、市民の皆様からすればここを見て、どんなものなんだなのをイメージされるわけですので、先ほどの委員のご意見というのは言ってみれば、2回ほど、この計画に目をとおしていただいた方が初めて気づかれる所でもありますので、やはり丁寧に考えるべきところは最後まで考えたほうが良いと思えます。

<事務局>

すみません、一番上の「地域を支えるネットワーク」というのが「4つの支え」と「4つの安心」を意味しており、この中にある地域を支えているという意味で記載をさせてもらっている部分になっていきますので、ここを別の言葉でというのは難しいというか、意図していることと離れてしまうのはどうかということがあるのですが。

<委員長>

そうですね。そうするともう、ここを外してイメージなので、この場で囲んでいるというところのイメージを尊重します。そもそもこの6番のタイトルである「伊賀市流地域共生社会」のイメージとは何かという説明は、計画を全部読んでいただくと分かると思えますが、そのイメージとして「地域を支えるネットワーク」という言葉がまた別途出てくると、さらにその中に地域福祉ネットワーク会議というような言葉も出てきますので、ここは「わ」で繋いでいただいているってところをイメージとして尊重し、「地域を支えるネットワーク」という文言を外してしまうのも一つかもしれません。

<事務局>

ありがとうございます。そうしたらとらせていただき、「わ」で囲むという形にさせていただきます。

<委員長>

ありがとうございます。その上で理念の言葉に変えていただく事と、それから四角の括弧を「6つの充実」に文言を揃えるということをお願いいたします。委員ありがとうございます。もう一つの方が社会資源です。ここは検討していただくということですが、それぞれの地域にはどんな地域資源があるのか、その資源をどのように活かしてどのような取り組みが行われているのかを把握する必要があります、となっていますので、「それぞれの地域には」の後の地域資源を、これ資源だけにしてはどうでしょうか。そうすると地域にはどんな資源があるのか、その資源をどのように活かしてどのような取り組みが行われているのかを把握する必要があります。地域の中にある地域資源というのは言葉が重複してしまいますので、ここも地域の中にある資源とすることにより、それを社会資源と拡大解釈をしていただくこともできるでしょうし、地域資源だったという説明も可能かと思いました。委員いかがでございましょうか。ありがとうございます。その他いかがでございましょうか。

<委員>

最終報告で申し訳ありませんが、28 ページで健康寿命を取り上げていただいておりますが、平均寿命と健康寿命の差が、28 ページでは分かりづらいように感じます。例えば、男性は健康寿命 72. いくつとか、その後に平均寿命 81. いくつとか、女性は健康寿命が今何歳で、平均寿命は何歳だ、そうすると自ずと男性は差が何年、女性は何年ぐらいの差があり、どうすれば健康寿命を保てるのだろうかという意識付けになると思います。このグラフからはちょっと分かりづらいです。修正を求めているのではなく、あくまでも参考として申し上げていますので、機会がありましたら市民の方々、住民の方々に平均寿命と健康寿命の差をグラフ化してわかりやすいものをご提示いただけたらありがたいと思います。

<委員長>

ありがとうございます。今のご質問の点ですが、第 3 次計画の記載が平均寿命との差が分かるグラフになっていませんでしたか。少しうろ覚えな記憶なのでまた確認をしていただけたらと思いますが、そのときのご意見は、はっきり出し過ぎてしまうのはいかがなものかというご意見だったと思います。このあたりは市民感情、市民の皆様が目線だと思っておりますが、第 3 次計画ではそのようなご意見がありました。

<事務局>

はい、前回は平均余命と健康寿命と介護等が必要な期間という形で、記載をさせていただいておりました。13 ページになりますが、こちらで第 3 次計画期間の、毎年委員の皆さんにご報告させていただいておりますが、それぞれ健康寿命と介護等が必要な期間という推移を記載させていただいております。平均余命というのはこの二つを足したのが平均余命になります。令和元年の分までお示しをさせていただいております。そういうのも委員長がおっしゃっていただいた理由と、ここでこれまで推移はお示しをしておりましたので、28 ページでは伊賀市が全国や三重県と比べてどうなのかということに主

眼を置いてお示しをしたという形になっております。

<委員長>

はい、ありがとうございます。データとしては 13 ページと合わせてご覧いただければ、第 3 次計画と同じ表記になっているということでございますが、28 ページではより過去のご意見を反映して、健康寿命にフォーカスを当てたところでございます。それだと今度は 28 ページをご覧いただいた市民の皆さんからすると、平均余命との違いが気になるのではないかというご意見でございます。このあたりは市民の皆様的情と言いますか感覚かなと思いますので、第 3 次計画に比べれば並べていただいた方が意識を高めやすいということであれば問題は無いかというふうに思います。この点いかがでございましょうか。今の原案としてはちょっと配慮したというところになっていると思っています。

<事務局>

報告に関しましては来年度以降もさせていただきますし、第 4 次計画の指標の一つになっておりますので、毎年推移をご報告させていただこうと思っております。

<委員長>

指標にはなっていますので、毎年度委員の皆様とも共有していく中で当然 13 ページのデータもあわせてというところかと思いますが、今回この計画の中で、28 ページにもそれを加えるかどうかですね。事務局としてここは健康寿命に注目をしてもらいたいという意図を見てくださいということですが、少し分かりにくいのではないかということでございます。いかがでしょうか？

<事務局>

本計画においては、より健康寿命の方に伸ばすっていうことをフォーカスとして思ってもらえたらなということで、この原案どおり行かせてもらえたらと思っております。

<委員長>

たとえば、13 ページと 28 ページが縦の棒グラフと横の棒グラフで使い分けていただいておりますが、重ねて見ていただけないように思ってしまうので、13 ページに関係のデータが載っているということを踏まえると、28 ページも縦の棒グラフにされると比較がし易いのかなと思いますが、親切かなと思います。いかがでしょうか。データはそのまま構いませんので。

<事務局>

全国と三重県と伊賀市の比較を縦の棒グラフでということでもよろしかったでしょうか？

<委員長>

一案かなと思いますが、まずそれは技術的には可能ですかね？

<事務局>

可能だと思っております。

<委員長>

ここに13ページの情報も盛り込んでしまうと、今度はまた別途わかりにくくなってしまふことを避けたいということでもあるかと思いますが、せめて見え方を一緒にするというところでいかがでございましょうか。よろしくお願い致します。

<事務局>

はい、縦表記にさせていただきます。

<委員長>

はいありがとうございます。それではもうひとつ方からもございましたのでお願いいたします。

<委員>

64ページの4番の感染症条項の対策推進の中で、ソーシャルディスタンスという言葉は、今はフィジカルディスタンスに替わりつつあります。言葉のあやですが、社会的分断をイメージするので、本当は身体的距離を取るといふような言葉に変わっているので、これから発表するんだったら新しい言葉を入れたほうが良いと思います。

<委員長>

はい。ありがとうございます。言葉のトレンドの部分ですが、これは伊賀市の行政計画としての使用としては、何か加える余地があるところでしょうか、いかがでしょうか。まだその行政の中で文言として一般化はしてないという状態ですか。

<事務局>

計画を作成したときの段階での言葉だったということとか、あくまでも当時国が出していた、新しい生活様式に記載されている文言でという部分でございましたので、ちょっと検討させていただきたいと思います。

<委員長>

はい。そうしますと伊賀市として今のところ行政計画等で、行政の中で使用する言葉は、このソーシャルディスタンスになっているということで、委員からいただいたフィジカルディスタンスについては特に想定されていないということです。ただこの委員会で委員の方から出していただいた意見ですので、この計画で載せるか載せないかということです。この点については、委員の皆さんとしてはいかがでございましょうか。書き加えるとすればソーシャルディスタンス並びにフィジカルディスタンスの確保というような言い方で、フィジカルディスタンスの一般的な用語の意味を下の脚注に載せる的なことかと思ひます。どちらかにするとなるとまたこれは判断となってしまひますので、両方表記とするかどうかですね。委員の皆様から特段のご意見がないよ

うでしたら、その判断を事務局に委ねてもよろしいでしょうか。

議事録にはそのような御意見をいただいたということは記載されますので、それを踏まえて今回の計画に反映するかどうか、それでは伊賀市にお預けをしたいと思えます。私も責任を持って確認をさせていただきます。ありがとうございます。その他いかがでございましょうか。眺めているといろいろ気づいたりする事も出てきますが、行政計画でありますので大枠のところコンセプトを皆様にはお諮りしながら進めてまいりました。細かい文言等につきましては皆さんご存知の通り事務局の方で一字一句ご確認いただいているところですが、お気づきの点や気になる点がありましたら教えていただければと思います。今後この最終案を持って答申とさせてもらってよろしいかどうかお諮りをいたします。お諮りする前に、もし今後「これはちょっと重大なものではないか」ということをお気づきになられた場合に、これは議会報告になるのですか。

<事務局>

議決案件になります。

<委員長>

なるということですね。ですからもう一つ議会のフィルターもかかるということにはなりますが、お気づきの点があれば事務局の方におっしゃっていただければご検討いただけるかと思えます。大枠、この答申案でよろしいかどうかお諮りをさせていただきたいと思えますが、最終案の審議に入らせてもらってよろしいでしょうか。はい、そうしましたら第4次伊賀市地域福祉計画の最終案につきまして、ご審議いただいたこちらの最終案をもちまして、諮問に対する答申とさせていただくことにつきまして、ご了承いただけますでしょうか。

<委員>

全員了承。

<委員長>

ありがとうございます。それではこちらの最終案をもちまして、いくつか修正がかかりましたので、それを反映させた形で最終案とさせていただきます。最終私の方でも確認をさせていただきます事を申し添えたいと思えます。ありがとうございます。それでは審議事項2つ目です。第4次伊賀市地域福祉計画策定後の進行管理案につきまして説明をお願いいたします。

<事務局>

資料4に基づいてご説明をさせていただきます。この第4次地域福祉計画が6月議会に提案させていただきました策定ができましたあとの進行管理をどのようにしていくのかという具体的なところは新たな体制、次の第4次計画推進委員会が立ち上がってから諮っていきませんが、大まかなところで3つの重点ポイントをもって進行管理を行っていくことを今回ご提案させていただきます。まず前回もそうでしたが、成果の見える化を測るために指標を設け

ております。前回の4つの指標プラス先ほどの協議事項の中に出てきました、地域福祉資源力をあわせた計5つの指標をもって見える化を測っていきます。地域福祉資源力につきましては、地域アセスメント等で報告を頂いている部分を活用していきたいと思っております。詳細は今年度中に、お示しをさせていただければと思っております。そしてこちらも前回同様に3つの大きな戦略に基づいて取り組みを進めていくというやり方、その戦略ごとの取り組みの進捗状況の報告をさせていただければと思っております。そして3つ目として委員のご意見の中にもありましたが、伊賀市では令和3年度から国の社会福祉法の改正に基づきまして、重層的支援体制整備事業に取り組んでいきます。これは国が提唱している地域共生社会の実現のために、包括的な支援体制を構築していくための具体的な事業ということで、令和3年4月1日施行で始まっております。この事業は計画も作っていかねばいけませんので、この事業で行っていく3つの大きな支援につきまして地域福祉計画推進委員会の中で報告等させていただければと考えております。以上3つの大きな項目に基づいて進行管理をしていくことをご提案させていただきます。

<委員長>

はい。ありがとうございます。先ほどご審議いただきました第4次計画の最後にも進捗管理といったところがございましたが、より具体的に3つのご提案いただきました。これは次期推進会議への申し送りに当たると思いますが、委員の皆様お気づきの点等ございましたらご質問、ご意見を承りたいと思います。いかがでございましょうか。特に1つ目の見える化につきましては第3次計画からの積み上げですので、より精度を高めながら、かつお示しいただくことに負担がかからない形で、市民の皆様にも還元していけるものをめざしたいと思います。それでは、第4次伊賀市地域福祉計画策定後の進行管理につきまして、こちらでお認めをさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。それではその他に入ります。事務局から何かありますでしょうか。

<事務局>

失礼いたします。今後のスケジュールについてですが、先ほど委員長からもご説明いただきましたように、本日ご審議いただいた意見をもとに修正をさせていただいた後に市長への当委員会からの答申ということで、5月10日に行っていただくことになっております。それを受けまして、6月議会に議案として提出したいと考えております。スケジュールとしては以上となります。よろしくお願い致します。もう1件ワクチン接種のことをご説明させていただきます。

<部長>

すいません。少しお時間をいただきます。お手元にこのような1枚ものチラシをご用意させていただきました。こちらをご覧くださいと思います。伊賀市では4月22日の木曜日にクーポン券を発送させていただきました。皆様方すいません、またこちらをご覧くださいなのですが、このような

黄色の封筒でございます。今週の月曜日ぐらいから皆様方のお手元のほうに、65歳以上の方について発送させていただきまして届いておるかと思っております。私ども本当に毎日のように、この「クーポン券はまだかまだか」というお問い合わせをたくさんいただいております、できるだけ早く送らなければというふうな所が先走ってしまい、この様なスケジュールを記載した用紙をこの中に入れなくて送ってしまいました。この封筒が届いて接種券であるとか、予診票であるとか簡単な流れを書いたお知らせの文書だけでしたので、届いた中を見て「そしたらどうしたらいいんや」というお問い合わせを昨日は200件超えました。市役所で200件ですので、コールセンターにはもっとお問い合わせが届いております。

私ども本当にもう、私自身反省すべき点ですが、チラシは5月1日の広報と一緒に折込みをさせていただきまして予定で、クーポン券が届きまして、5月の広報には伊賀市内で個別接種、病院診療所でワクチンを打っていただくことになっております。どこの病院で打っていただけるのかという一覧表も併せて入れまして広報と一緒に折り込みをさせていただきます。それをご覧いただき、かかりつけの病院に5月17日の月曜日からお電話で予約をしていただきたいと思います。予約をしていただきましたら、次週5月25日の火曜日の午後から実際に接種開始をしていただく流れになっております。皆様方まで家族や、お知り合いなどで、「こんな封筒が届いたんやけども、次どうしたら良いのだろう。何かよく分からん」というふうなお問い合わせがございましたら、5月1日の広報に今後の流れが書いたチラシが配布されるからちょっと待ってくださいとお伝えいただけたらと思います。

<委員長>

はい。ありがとうございます。委員の皆様から全体をとおしまして何かございますか。

<委員>

先ほど最終案が決定されたわけでございます。その中で私、伊賀市の社会福祉法人連絡会の代表として出席させていただいております。最終案の74ページに多機関の連携による福祉の「わ」づくりの中で、私ども社会福祉法人連絡会による取り組みを推進します。こういう項目を掲げていただいて大変光栄に思っておりますし、責任の重大さ、そういったものを感じているところでございます。本年度、連絡会で話し合いをしまして取り組みを具体的なことをここに記載をしていただいておりますが、それに加えて、先ほどから出ている地域福祉ネットワーク会議との関わりをやっぱり重視しようということになりまして、市内にあります15の社会福祉法人、伊賀市内に点在しておりますが、それぞれ地域の実情に合った地域貢献活動をしていこうということになりまして、各住民自治協議会等に設置されております地域福祉ネットワーク会議に地域福祉関係者として積極的に参画をする用意があると、ぜひお声掛けをしてもらいたいと、こういう呼びかけをこれから社協さんと共にやってまいりたいと思っております。そして、具体的な活動としましては、

各地区市民センターに出向きまして、社協さんの地域福祉コーディネーターと共に生活相談窓口をひとつ開設してもらおうじゃないかと、こういう働きかけをすることによってこの「わ」づくりの一翼を担わせていただこうと、こういうことを考えておりますので、この機会に皆さんにもちょっとお伝え申し上げておきたいと思っております。以上でございます。

<委員長>

はい。ありがとうございます。第4次計画の目玉になるようなご提案を最後にいただいたことを大変光栄に存じます。最後の相談窓口というのはこの社会福祉法人の中にとということですか。それとも地区市民センターにとということですか。

<委員>

社会福祉法人のそれぞれ資格を持った職員がございまして、その者と地域福祉コーディネーターとが組んで、地区市民センターで日程を設定し、そこに半日2時間ぐらいでもお伺いするというしくみができたらということで、置いてもいいよっておっしゃっていただける自治協もあれば、地区市民センターがあればそちらの方へ時間を作っていただいて、開設をしたいということでございます。

<委員長>

はい。ありがとうございます。個人的なあれになるかもしれませんが、第3次計画では、第2次計画まで実は福祉総合相談窓口が伊賀市内には複数ヶ所あった訳ですが、地域包括支援センターに集約されたことで3ヶ所になってしまいました。それまで6ヶ所あったのですが、そのことに対しては我々も忸怩たる思いはあったのですが、復活とはいいいませんが新たな展開として、そのような更に多くの場所に開かれるということになりますと、ますます伊賀市としても非常にアピールしていただけるところと思います。委員のお申し出につきまして私の方からも社協を初め、伊賀市の関係部局におかれまして、全力でですね、どうか実現に向けて取り組んでいただけることをお願いしたいと思います。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは予定をしていました時間を少し超過してしまいました、申し訳ございません。しかしながら、本日を持ちまして第4次伊賀市地域福祉計画の最終案を取りまとめることができました。委員の皆様方のお力添え、ご協力に感謝を申し上げます。この後、事務局からもご説明ありましたが5月10日に、市長様の方へ皆様を代表しまして、謹んで答申を申し上げたいと思っております。その後は新たな推進委員会の体制をめざしますが、もう一度皆様の任期内に進捗管理で会議等を持ちたいと事務局で検討していただいているようでございます。まずは、答申のご報告を無事にさせていただけることと、それから6月の議会で諮られますので、ここも常に皆様、議会の議事などにも関心をお寄せいただいているところかと思いますが、皆様と一緒に作った計画が審議されますので、どうかご注視をいただければというふうに思います。ここまでの審議進行にご協力いただきましたことを感謝申し上げます。

いと思います。それでは事務局にお戻しいたします。

<事務局>

ありがとうございました。委員長ありがとうございました。先ほど委員長のおっしゃったように、この第4次計画の策定に関しましてはこれで皆様方に出ていただくのは最後となりますけれども、本年の7月31日までが皆様方の任期期間でございます。令和2年度の事業報告等もさせていただく部分がございますので、6月の議会のこの承認を得たらその結果報告と、それから令和2年度の事業報告を兼ねまして、できましたら7月の早い時期に再度お寄りいただいてご報告申し上げたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。それではこれもちまして、令和3年度の第1回の推進委員会を終了させていただきます。本当にありがとうございました。